

原木測定アプリ「木算」開発

山土場で原本データ作成

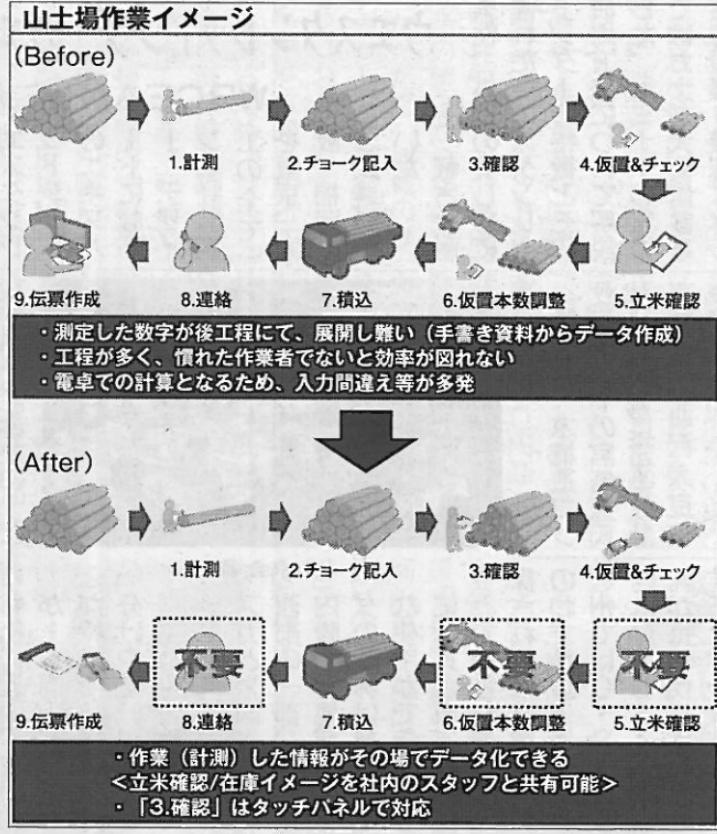
クリスティック松本事業所（長野県松本市、宮郷拓也所長）と長野県納材協会（須江豊理事長）は、原木測定システム「木算（モクサン）」を共同開発した（3月20日付既報）。山土場作業の簡略化を図ることも、信頼性の高い原木流通を実現するツールとして注目を集めている。開発に当たっては、12年度林野庁補助事業「地域材供給倍増事業」を活用した。

このにより、立
確認や仮置き本
整、電話連絡とい
従来の作業が不要
タ一を使つてその辺
度で自動置き込み
くな

The diagram illustrates the timber processing workflow. It starts with a stack of raw logs on the left, which are processed through a sawmill (indicated by a saw icon) to become logs with cut ends. These logs then move through a series of processing stages represented by icons of a truck, a stack of logs, and a sawmill. The final product is shown as a stack of processed timber beams on the right.

・5X横120X厚10
・45°のコンパクトサ
イズで、冬場は手袋を
して作業するため操作
はタッチペンで行う。

山土場作業では、測定した数字が後工程で展開しにくい（手書き資料からデータを作成しなければならない）という欠点がある。計測、チヨーク記入、確認、仮置き・チェックなど工程が多く、慣れた作業者でないと効率化が図れないほか、電卓での計算となるため入力ミス等が多発するといった課題を抱えて



エクセル上でパソコンに取り込むことがで、単価を入れて計算できる。